

第7章 高安千塚古墳群の活用

第1節 活用の方向性

(1) 活用の基本的な考え方

①上位計画及び関連計画との関係

高安千塚古墳群の各古墳に備わる「①畿内有数の大型群集墳」、「②渡来系集団と地域社会の関係がわかる古墳群」としての本質的価値を伝えるための活用を検討する上で前提となるのが、八尾市がめざす将来都市像の実現に向けた上位計画である「八尾市第5次総合計画」の施策「**歴史資産などの保全と活用**」の推進である。

そのなかで、高安千塚古墳群は、八尾の魅力を高める貴重な歴史資産（※）として積極的な活用が求められている。さらに、八尾市第5次総合計画と整合を図りつつ、八尾市の教育の方向性を示した「八尾市教育振興計画」においても、「**貴重な歴史資産の保全と積極的な活用**」をめざしている。

また、史跡指定による保存と活用に向けて平成25年6月に策定した「高安千塚古墳群保存活用事業基本構想」では、歴史資産としての高安千塚古墳群のめざす姿を定め、その活用のあり方を検討をした。

本計画では、上位計画を基本にして、「高安千塚古墳群保存活用事業基本構想」や関連計画を踏まえ、高安千塚古墳群の活用方法を検討する。

②将来の計画

高安千塚古墳群の具体的な活用案の詳細については、本計画の基本方針を踏まえて、将来の史跡の公有化を経たのち、「活用」のための整備の前提として策定する必要がある「史跡整備基本構想及び基本計画」の中で検討する。

※歴史資産＝歴史遺産（文化財）を「遺す」から「活かす」へと発展させる考え方

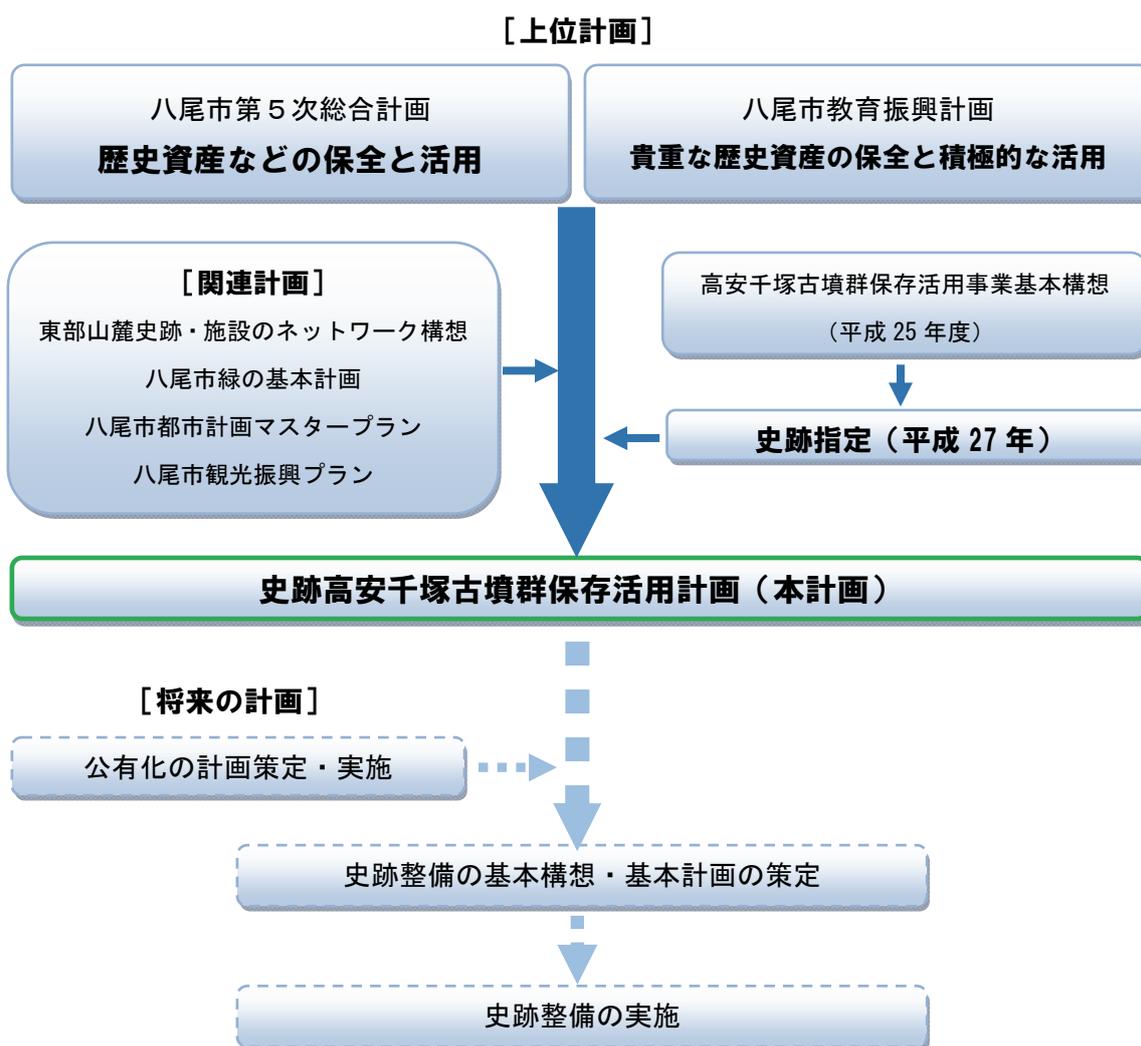


図 7-1 高安千塚古墳群の「活用」にかかる上位及び関連計画との関係

（2）活用の方向性

本質的価値を伝え、継承する活用

【方向性】

活用の目的を踏まえた効果的な活用方法を検討する。

高安千塚古墳群の効果的な活用にあたって、活用の目的を踏まえて、高安千塚古墳群の本質的価値を伝え、継承するための「文化財としての活用」を基本とし、さらに地域の学習教材とするための「地域教材としての活用」、地域資源（観光資源）とするための「地域資源としての活用」の3つの考え方をもとに、活用方法の検討を行う。

【高安千塚古墳群を効果的に活用するための3つの考え方】

文化財としての活用

中河内の大型群集墳を体感

文化財に親しむ機会の充実を図り、文化財保護への意識を高めるため、「文化財（史跡）」として、調査・研究の成果に基づいた高安千塚古墳群の本質的価値を広く普及啓発する。

さらに、多くの人々が現地を来訪し、高安千塚古墳群を体感できるような活用方法を検討する。

地域教材としての活用

郷土の歴史、自然、産業などの学習を促進

高安千塚古墳群を郷土の歴史を学ぶ貴重な生きた歴史教材、加えて高安山麓の豊かな自然や地域の産業である植木畑など、郷土の歴史や自然、産業を学ぶことができる「地域教材」として活用する。

さらに、学校教育と社会教育の2つを対象にして、八尾市立歴史民俗資料館や八尾市立しおんじやま古墳学習館等などの文化財施設と連携した地域教材としての活用方法を検討する。

地域資源としての活用

地域への誇りを育み、市民の活動を促進

高安千塚古墳群のある高安山麓は、歴史や文化財だけでなく、この地域に独特なものとして現存する自然や文化（高安能・祭など）、産業（農作物・植木畑）など多面的かつ多様な「地域資源」を有する。高安千塚古墳群を含むこれら地域資源の活用により、先人たちをしのぶ地域への誇りとしての醸成が必要である。

高安千塚古墳群と高安山麓を一体的に捉えた魅力ある地域資源として継承していくため、地域の理解と協力のもと、地域と連携して地域を活性化できるような活用方法を検討する。

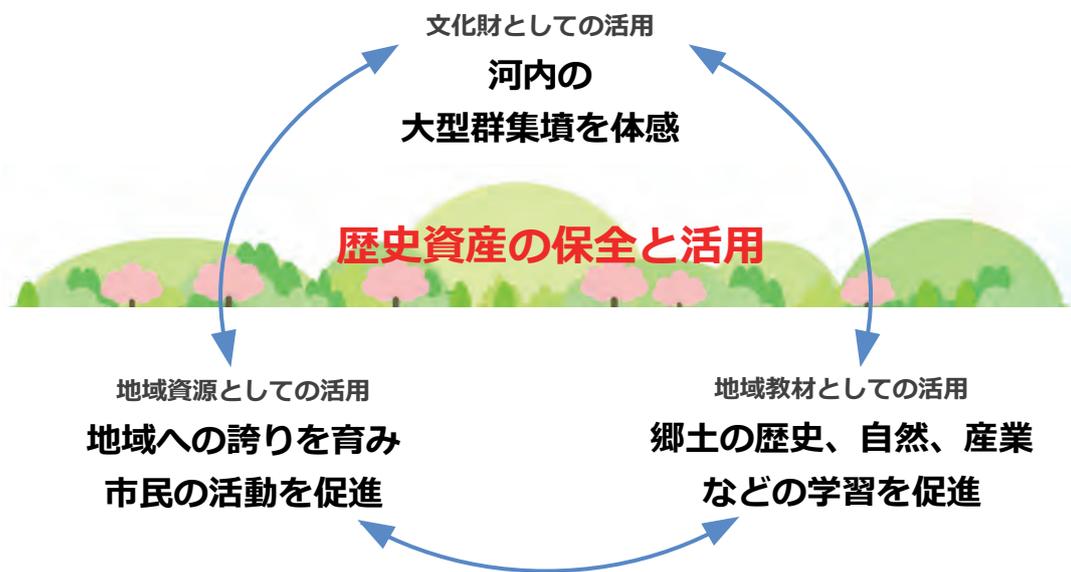


図 7-2 高安千塚古墳群の活用の考え方

第2節 活用の方法

「文化財としての活用」、「地域教材としての活用」、「地域資源として活用」の3つの活用の考え方ごとに、市民が高安千塚古墳群を活用するにあたって、「知る」→「見る」→「調べる」といった古墳への関わりを段階的に上げ、さらに高安千塚古墳群を「支える」立場へとつなげていくための活用方法を検討する。

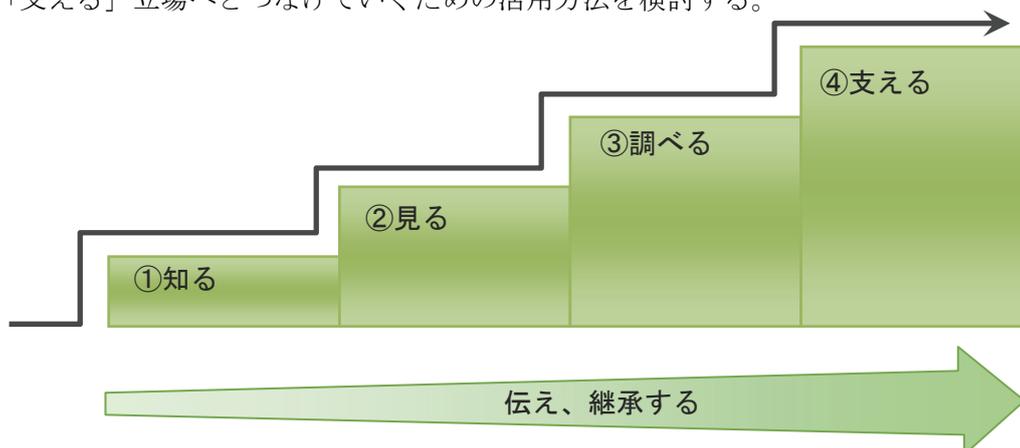


図 7-3 段階的な活用のタイプ

(1) 文化財としての活用方法

文化財としての高安千塚古墳群の本質的価値を「知る」ための方法として、パンフレットやホームページなど多様な広報手段を使って、積極的かつ継続的に情報発信を行うとともに、現地見学会等の普及啓発イベントを実施する。さらに、環境整備としては、現地で古墳の場所や価値を「知る」ための古墳名板や説明板等を設置する。

将来的には、高安千塚古墳群の本質的価値である大型群集墳の墳丘、横穴式石室等を現地公開し、「見る（体感する）」ために必要な整備を検討する（表 7-2）。

表 7-1 文化財としての活用方法

活用タイプ	活用方法
①知る	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやホームページ、映像（動画）、広報媒体等で情報を発信する。 ・高安千塚古墳群に関する普及啓発のイベント等を実施する。 ・高安千塚古墳群の価値（表 7-2）を伝える古墳名板や説明板等を設置する。
②見る	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で大型群集墳の景観や墳丘及び石室を見る（体感する）ことができるような整備を行う。
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾市立歴史民俗資料館や八尾市立しおんじやま古墳学習館、図書館やインターネットなどで高安千塚古墳群に関する資料を調べることができるよう、情報を提供する。
④支える	<ul style="list-style-type: none"> ・高安千塚古墳群に関する調査、研究や保全活動等に参画できる機会を設ける。

表 7-2 「見る（体感する）」ための高安千塚古墳群の価値

見るべき価値		価値の内容
本質的価値	畿内有数の大型群集墳	<ul style="list-style-type: none"> ・中河内を代表する大型群集墳で、横穴式石室を有する古墳（主に円墳）が密集して分布する。 ・大和の大型横穴式石室に準じる規模と構造をもつ大型で精緻な構造の石室など、様々な特徴を持つ石室がある。
	渡来系集団と地域社会の関係がわかる古墳群	<ul style="list-style-type: none"> ・渡来系集団の関係がうかがえるドーム状天井石室や韓式系土器、ミニチュア炊飯具などの副葬品がある。
付加価値	考古学史上の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な考古学史をもち、江戸時代から知られ、明治時代にモースやガウランドなどの外国人研究者が訪れ、いち早く海外に紹介された歴史をもつ。
	群集墳の景観と眺望	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳が連なる群集墳の歴史的な景観と、古墳群から見渡すことのできる大阪平野の眺望がある。

（2）地域教材としての活用方法

①学校教育での活用

地域教材としての活用は、学校教育における高安千塚古墳群への学習機会の促進が必要となる。高安千塚古墳群を生きた教材として効果的に活用するために、前方後円墳である史跡心合寺山古墳との比較や、中河内に居住した渡来人との関わりなど、小・中学校の学校カリキュラムにおける古墳時代の学習の中での位置づけが必要である。

そのために、高安千塚古墳群を地域の歴史の一つとして普及啓発し、学校教育における活用を進めるため、学校教職員等への積極的な働きかけを行うとともに、高安千塚古墳群を学習教材としたビデオ等の作成などを検討する。

また、校外学習としての遠足の場所や地域の産業である植木畑などを学べる場としても活用する。高校生や大学生においては、考古学や歴史での課外活動や研究のフィールドとして活用する。

②社会教育での活用

社会教育（生涯学習）を対象に、高安千塚古墳群を地域教材として地域の歴史や文化財等を学べる機会や場の提供を行うため、高安千塚古墳群の現地見学会や関連する内容の講座等の開催などを行う。

③文化財施設での活用

高安山麓の歴史や文化財を学べる文化財施設である八尾市立歴史民俗資料館や八尾市立しおんじやま古墳学習館との役割分担を行いつつ、現地と文化財施設が連携した効果的な学習を行う。

表 7-3 地域教材としての活用方法

活用タイプ	活用方法
①知る	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や自然、産業（地域教材）の一つとして、高安千塚古墳群を学校カリキュラム（社会科）の中で位置づける。 ・高安千塚古墳群を紹介したビデオ等の教材を作成する。 ・社会教育を対象とした講演会等を実施する。
②見る	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育を対象とした現地見学会等を実施する。 ・学校カリキュラムや校外学習の一環として現地を見学できるよう、整備を行う。
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校生の学習や、社会教育のテーマ、大学等の研究フィールドとして活用できるよう、対象に応じた情報を提供する。
④支える	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史への理解者、協力者となるよう、幅広い世代への継続的な学習機会を設ける。

参考：学校カリキュラム（社会科）への対応

○小学校 6 年生社会科小単元：大昔のくらしと国の統一

1 大昔のくらし

狩りや漁の生活

変わるくらしのようす

米作りが広がったころ

むらからくにへ

2 国が統一される

古墳を調べる

大和朝廷と渡来人のかつやく

ふりかえてみよう

出典：文教出版「小学生の社会」年間指導計画（案）抜粋

表 7-4 学習のねらい

学習事項	学習のねらい
古墳を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・大仙（仁徳陵）古墳の様子、<u>出土品や古墳の作り方などから、強い力をもった豪族や王が現れた古墳時代の様子を考えることができる。</u>
大和朝廷と渡来人のかつやく	<ul style="list-style-type: none"> ・各地に大きな力をもった豪族が出現した古墳時代の様子を調べ、<u>大和朝廷が進んだ技術や新しい文化を伝えた渡来人との結びつきを強め、国を統一していったことをとらえることができる。</u>

出典：文教出版（八尾市立小学校使用教科書）

○中学1年生社会科小単元：日本列島の人々と国家の形成

- 1 日本人のルーツと縄文時代
- 2 稲作の広まりと弥生時代
- 3 ヤマト王権と渡来人
- 4 東アジアの統一国家
- 5 聖徳太子と飛鳥時代
- 6 律令国家をめざして

出典：文教出版「中学校 社会 歴史的分野」年間指導計画（案）

表 7-5 学習のねらい

学習事項	学習のねらい
3 ヤマト王権と渡来人 ・巨大な墓とヤマト王権 ・大王・豪族と人々の生活 ・中国や朝鮮との交流と渡来人 【7月】	○古墳の分布や大陸との関係を通してヤマト王権による国家の形成について理解することができる。 ○渡来人の知識や技術がヤマト王権にあたえた影響を理解することができる。

出典：文教出版（八尾市立中学校使用教科書）

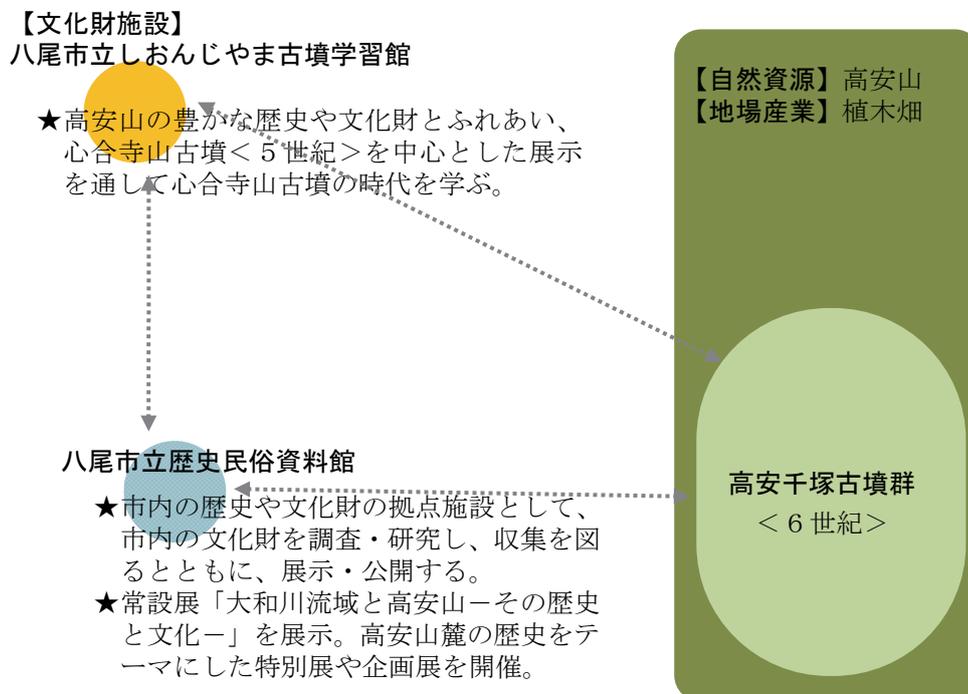


図 7-4 文化財施設との役割分担

(3) 地域資源としての活用方法

まちづくりや観光面において、地域の歴史や文化財、自然、文化、産業などが一体となった高安山麓特有の地域資源のひとつとして、高安千塚古墳群を活用する。そのために、高安千塚古墳群とその他の地域資源を結びつけ、地域の魅力を高めることにより、地域と連携し、地域の活性化を図る。

①地域との連携

地域の理解と協力のもと、地域や市民との積極的な連携を進める。そのために、地域（郷土）にとって身近な歴史や生活の中での高安千塚古墳群に関する聞き取り等の調査を行う。さらに、古墳の清掃や草刈りなどの保全活動やパトロール、高安千塚古墳群及び周辺地域の案内ガイドなどへのボランティア活動の参画を促進するため、育成と体制づくりを行う。将来的には、地域が主体となった活動に方向づける。

②観光資源としての活用

新たな八尾の魅力となるよう、高安千塚古墳群へ案内するための説明板や方向サインの市全体を視野に入れた整備、ホームページや観光パンフレット類による情報提供、さらにこれらの外国人観光客の受け入れにむけた多言語対応等の検討が必要である。

また、高安千塚古墳群のキャラクター等の積極的な活用による普及啓発活動を行う。

将来的には、地域が主体となった観光や経済活動を展開するための方法を検討する。

表 7-6 地域資源としての活用方法

活用タイプ	活用方法
①知る	<ul style="list-style-type: none"> 高安千塚古墳群と高安山麓の歴史や、自然、文化、産業を結びつけた地域特有の資源として情報発信する。 情報発信においては、日本語だけでなく、多言語への対応を行う。
②見る	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源として活用できるような整備を検討する。
③調べる	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史の中での高安千塚古墳群に関する聞き取り等の調査を行う。
④支える	<ul style="list-style-type: none"> 高安千塚古墳群の保全活動だけでなく、高安千塚古墳群と周辺の案内や地域の歴史を伝えるなどの幅広い市民活動への支援を行う。 地域の商店等の収益性の向上や雇用創出などの地域の活性化につなげることができるような検討を行う。

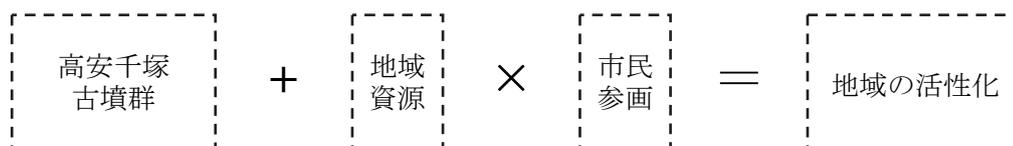


図 7-5 高安千塚古墳群と地域資源の活用展開

